

第2回「文化芸術による復興推進コンソーシアム」運営委員会 議事要旨

1. 日 時 平成 25 年 11 月 15 日 (金) 午後 14 時 30 分～午後 16 時 00 分

2. 会 場 東京都中小企業会館 8 階 C 会議室

3. 出席者 運営委員:

本 杉 省 三 委員長
荻 原 康 子 委員
関 裕 行 委員
田 澤 祐 一 委員
畑 中 裕 良 委員
半 田 昌 之 委員
松 本 辰 明 委員
渡 辺 聡 委員 (委員長以下 50 音順)

その他の出席者:

北 風 幸 一 (文化庁 文化部 芸術文化課 文化活動振興室長)
大 澤 隆 夫 (文化芸術による復興推進コンソーシアム 東北事務所長)

4. 議 事

(1) 本杉議長より開会の宣言があり、会議に先立ち事務局担当の松本委員から委員現員数 8 名、委任状提出委員 1 名となっており、本会議が有効に成立している旨の報告があった。

(2) 議題 1 「コンソーシアムの活動報告」について

事務局より、10 月 18 日に開催された「支援・受援ネットワーク会議」について「次第」や「概要」を基に、3つのテーマ(「復興と伝統芸能の力」「子供の未来のために」「被災地からの創造発信」)に分けて関係者から実績・課題・今後の展望を報告いただき議論を行ったとの報告がなされた。また、各テーマの中で提起された取組を基に参加者のネットワークづくり等を協議する総括会議が行われ、この総括会議の冒頭で、助成団体や企業から取組が紹介され、引き続き会議のまとめが行われたとの説明があった。さらに参加者から収集したアンケートを今年度後半の事業の参考にしていきたいとの報告があった。

本杉議長が委員一同に諮ったところ意見・質問は出されなかった。

(3) 議題 2 「現在のニーズと対応状況」について

事務局より、資料を基に今年度コンソーシアムに寄せられた文化芸術による復興推進活動の仲介の依頼や相談の報告と、その対応状況について説明があった。

・田澤委員よりニーズに含まれている「福島発信ダンスプロジェクト」については、(公社)日本芸能実演家団体協議会で協力する意向であるとの報告があった。企業協賛も集めて約 2,000 万円規模の予算で公演を考えており、事業の内容は能楽・日本舞踊・ダンス公演で出演者も決まっていること、会場は福島・神奈川・東京などで調整しているとの説明があった。

(4) 議題 3 「コンソーシアムの今後の活動について」

事務局より、コンソーシアムの今後の活動については、具体的な視点をもって要望や取組を整理し、繋げていく意向であるとの報告がされた。また、各団体の文化芸術による復興支援の取組に対する情報伝達の手法についてもメールマガジン等を駆使して向上していく意向であるとの報告がされた。そして、ネットワーク会議で提案のあった「震災巨大水彩画」について、復興の重要性をアピールする目的で、東京での展示企画が提案された。

- ・「ネットワーク会議」からまだ具体化されていない議題については、プロジェクトを具体化するための検討会等を下半期の活動の中で行ってはどうかという意見が出された。
- ・半田委員より(公財)日本博物館協会として、陸前高田市の市立博物館のコレクションの展示企画を、江戸東京博物館に仲介しているとの報告があった。その中で、来年度も文化財レスキュー事業による復興支援を紹介する展覧会を予定しているが、この展覧会に「震災巨大水彩画」を背景にしてセットにすると、見る側にとって立体的に映り効果的ではないかという個人的な構想は持っているものの、実現するのは実務的に難しいとの意見が出された。
- ・荻原委員よりコンソーシアムで「震災巨大水彩画」の企画を東京で開催するのであれば、強いメッセージを企画に取り入れなければならないとの意見が出された。例えば、この絵が震災の象徴となるように展示する機会を設けるのであれば、企画が自立する仕組みについてコンソーシアムとして検討してはどうかとの意見が出された。
- ・荻原委員の発言を受けて、本杉委員長よりコンソーシアムが企画の中心となるのではなく、別の組織や人が前に出る仕組みを検討してはどうかとの提案がされた。
- ・北風室長よりコンソーシアムの事務局には、新しい取組を行うための仕組みづくりに携わっていただきたいとの要望が出された。
- ・北風室長の発言を受けて、本杉委員長より、支援活動が長続きするような様々な仕組みをつくる主導権をコンソーシアムが担う必要があるとの確認がされた。
- ・田澤委員より「震災巨大水彩画」については、震災の記憶を蘇らせたくないという人がいるということも考慮し、様々な角度からの話し合いが必要であるとの意見が出された。
- ・関委員より、「震災巨大水彩画」については、コンソーシアムとして、どのような位置づけで行うのかを、もう少し整理したほうがよいとの意見が出された。
- ・「震災巨大水彩画」の企画については、今年度は見送り、もう少し検討することが確認された。

(5) 議題 4 「その他報告」について

事務局より「ウェブサイトについて」については、昨年度よりもアクセス数は増えているが、もっとアピールできる工夫をしていきたいとの報告がされた。「賛同団体(者)の登録について」「復興推進員一覧表」についても資料を基に報告が行われた。

- ・北風室長より、このコンソーシアム事業については震災から 5 年を目途に区切りとし、何らかの成果を出してもらいたいとの要望があった。

本杉議長が委員一同に諮ったところ意見・質問は出されなかった。